

両班幻想 -韓国近世史の現場を歩く-

講師：吉田光男さん（東京大学名誉教授・放送大学名誉教授・日韓文化交流基金評議員）

日時：2018年7月12日（木） 開場18：00

講演会 18：30～19：45 ※質疑応答の時間も含まれます。

懇談会（自由参加） 19：50～20：30

会場：公益財団法人日韓文化交流基金 会議室

参加費：当基金賛助会員及び大学院生以下：無料、非賛助会員：500円



両班とは何だろう。両班は韓国近世社会を考える最重要用語だが、近世から近代へと時代が下がるにつれ、文武高級官僚という本来の意味が変容し、誤解を生み出してきた。

儒教の学識を認められた高級官僚から、儒教文化体现者である士族へ、さらに一般人へと指称する対象が拡大し、現代韓国では多くの人々が両班末裔と誤解するに至った。文献資料と名門家門・宗家などの現地調査を基礎として、両班の歴史の実態と現代的意味を解読する。

【講師紹介】

1946年生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院人文学研究科博士課程修了。博士（文学）。東京外国語大学朝鮮語科、東京大学文学部・大学院人文社会系研究科の助教授、教授を歴任し、放送大学教授・理事・副学長・図書館長。現在は東京大学名誉教授・放送大学名誉教授。韓国近世史研究を専門とし、1970年代から韓国にわたって文献資料と現地調査を続けてきた。近世都市と農村における集落構造、住民の社会関係、血縁と地縁、身分構造、ソウルの都市史的研究、商業と流通、交通、政治、東アジア国際交流など研究テーマは多岐にわたり、足繁く韓国に通う現代韓国社会ウォッチャーでもある。主な著書に、『近世ソウル都市社会研究』（2009年、草風館）、『漢京識略』（訳註、2018年、平凡社）、『朝鮮史研究入門』（共著、2011年、名古屋大学出版会）、『日韓中の交流』（編著、2004年、山川出版社）など、主な訳書に、朴漢濟『中国歴史地図』（2009年、平凡社）、韓国教員大学歴史教育科『韓国歴史地図』（監訳、2006年、平凡社）、韓永愚『韓国社会の歴史』（2003年、明石書店）、金東哲『朝鮮近世の御用商人』（2001年、法政大学出版局）、などがある。

■お申込み方法

日韓文化交流基金の講演会担当まで、電話もしくはメールにてご連絡ください。ご連絡の際には①お名前、②ご連絡先、③ご所属をお知らせください。

*定員(50名)を超えた場合、早めにお申込みを締切場合があります。

■お問合せ先：日韓文化交流基金 講演会担当

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-21-2
ユニゾ水道橋ビル(リーフスクエア水道橋ビル)5階
TEL.03-6261-6790 / FAX.03-6261-6780
E-mail: lecture@jkcf.or.jp



- JR中央・総武線水道橋駅下車 東口・西口より徒歩3分
- 都営三田線水道橋駅下車 A2出口より徒歩4分